

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年1月6日

【評価実施概要】

事業所番号	0970200663		
法人名	社会福祉法人美明会		
事業所名	特別養護老人ホーム義明苑 グループホームくぼた		
所在地	栃木県足利市久保田町1220-1 (電話) 0284-74-2131		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年12月4日	評価確定日	平成22年1月6日

【情報提供票より】(平成21年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤7人(うち兼務1人), 非常勤3人, 常勤換算7.3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分		
------	-----------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	8,100 円	その他の経費(月額)	・光熱費—500円/1日 ・日用品, 共益費—400円/1日 ・おむつ代—実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成21年11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	78 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長崎病院、かめいクリニック
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、田園に囲まれた静かな環境の中に位置している。敷地内に同法人の特別養護老人ホーム、ケアハウス、デイサービスセンター、地域包括支援センター等が隣接しており、他法人事業所で実施されている行事に参加をしたり、人的援助を受ける等、法人内の連携が図られている。ホームの事業理念である「ゆったり生きる、うっとり味わう」の実践に向けて職員は常に笑顔で入居者にゆったりと接している他、職員間のチームワークが良好であり、お互い助け合って業務を推進している。また、同法人は職員の育成にも力を入れており、内部研修が充実している点や外部研修への参加も奨励しており、職員の前向きな姿勢が感じられるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果から改善に向けて取り組んだ点としては、他のグループホームとの交流の促進や門扉の施錠を時間帯や職員人数を考慮して施錠しない時間を設けた等、評価結果を改善に活かしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価票は、管理者が取り組んだものを案として職員に回覧を行う他、意見等を書き込んでもらい、それらを最終的に管理者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議のメンバーは、入居者、老人会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、ホーム職員等で構成されており、2ヶ月に1回ホームのホールで開催している。会議ではホームの活動状況や入居者の生活状況等の報告や参加者から意見や助言を出してもらっている他、入居者からも発言をしてもらっている。老人会の会長からサロン会を紹介してもらうなど、会議での意見や助言をサービスに活かすようにしている。会議の開催は平日の午前中であり、家族の参加はない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの苦情等の受付は、苦情箱を設置して意見を求めたり、重要事項説明書にも外部苦情受付機関を明示している。ホームでの行事の際にも家族から要望等を聞くようにしており、現時点では大きな苦情等は無く、むしろ感謝の意を表すなどの声が多い。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会には加入していないが、地元老人会のサロン会十数名が四半期毎に来所してくれており、入居者と一緒に談笑したり、折り紙等を行って交流を深めている。また、地域のクリーン活動に入居者も暖かい時期には職員と共に参加をしたり、学校や地区の運動会や文化祭等に参加しており、地域と交流する機会を増やしている他、法人の納涼祭や花火大会に地域住民を招待するなど相互交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の事業理念、「ゆったり生きる、うっとり味わう」をつくりあげており、ホーム内にも掲示されている。職員は入居者のホームでの生活を自分の家庭での生活と考えられるよう、日々理念の実践に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人とグループホームの事業理念を一日おきに朝礼時に全職員で唱和しており、理念の共有や日々の支援に役立っている。職員はソファで入居者と話し込むなど、理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、地元老人会のサロン会十数名が四半期毎に来所してくれており、入居者と一緒に談笑したり、折り紙等を行って交流を深めている。また、地域のクリーン活動に入居者も暖かい時期には職員と共に参加をしたり、学校や地区の運動会や文化祭等に参加しており、地域と交流する機会を増やしている他、法人の納涼祭や花火大会に地域住民を招待するなど相互交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価票は、管理者が取り組んだものを案として職員に回覧を行う他、意見等を書き込んでもらい、それらを最終的に管理者がまとめている。前回の外部評価結果から改善に向けて取り組んだ点としては、他のグループホームとの交流の促進や門扉の施錠を時間帯や職員人数を考慮して施錠しない時間を設けた等、評価結果を改善に活かしている。	○	自己評価においては、まずは全職員で項目毎に分担する等の方法でも良いので、自己評価に取り組む、管理者が職員と意見交換をしながら最終的にまとめあげる等、さらに評価の理解と活用が深まることに期待したい。

特別養護老人ホーム義明苑 グループホームくぼた

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは、入居者、老人会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、ホーム職員等で構成されており、2ヶ月に1回ホームのホールで開催している。会議ではホームの活動状況や入居者の生活状況等の報告や参加者から意見や助言を出してもらっている他、入居者からも発言をもらっている。老人会の会長からサロン会を紹介してもらうなど、会議での意見や助言をサービスに活かすようにしている。会議の開催は平日の午前中であり、家族の参加はない。	○	開催日や時間、家族の参加や議題によっては消防署員や地元警察官にも参加してもらうなど、更に工夫をして運営推進会議が充実したものになるような取り組みに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当職員とは、運営推進会議等での情報交換や法人内にある地域包括支援センター等を通して連絡や報告を行っており、市とホームの連携に努めている。	○	市担当職員へホームの現状や課題等の情報提供を行い、ホームの情報を共有すると共に、市担当職員から他事業所での取り組み状況等を聞いたり、市と共に取り組める行事や事業はないか提案する等、さらに市と連携を図りサービスの質の向上へ向けた取り組みに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への入居者の状況報告については、面会時や毎月の利用料の支払いで来所した際に行っている他、管理者が電話等での報告も行っている。また、ホームの広報誌「だんらん」や行事の際等も活用して報告している。金銭管理はホームで必要時には立替え払いを行い、家族へ報告し、請求をしている。職員の異動時には、入居者や家族に挨拶や紹介を行っている。	○	医療ケース以外は口頭での報告が多いが、広報誌の送付時に入居者各々の暮らしぶりや健康状態を明記した書面を添付し報告を行うなど、さらに入居者のホームでの生活状況等を家族へ伝える取り組みに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの苦情等の受付は、苦情箱を設置して意見を求めたり、重要事項説明書にも外部の苦情受付機関を明示している。ホームでの行事の際にも家族から要望等を聞くようにしており、現時点では大きな苦情等は無く、むしろ感謝の意を表すなどの声が多い。	○	運営推進会議に家族にも参加をってもらう他、要望等も含めたアンケート調査を実施する等、さらに家族からの意見や要望等を表す機会づくりを検討することを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームでの職員の異動は年1回で数名が異動となるが、異動はできるかぎり最小限におさえている。入居者には異動する前にきちんと説明を行い、異動後も同敷地内の職場である為、職員及び入居者は相互に行き来したりしている。新しい職員はこまめに挨拶を行い、名前や顔を覚えてもらうよう接しており、ダメージを防ぐ配慮に努めている。		

特別養護老人ホーム義明苑 グループホームくぼた

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の人材育成プロジェクトによる内部研修会が夜間時に月数回、各事業所の持ち回りでテーマや講師を決めて開催されており、都合の付く職員は参加をしている。また、介護福祉士やケアマネジャー等の資格取得の勉強会も毎週実施している他、県グループホーム協会等が開催する外部研修にも職員を派遣している。外部研修の受講後は伝達講習を行い、職員間で情報の共有に努めている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県グループホーム協会に加入しており、同業者と交流する機会を持っている。また市内の同業者間でのネットワークが構築されてきており、管理者や職員が参加しての意見交換や相互訪問等の交流が図られてきている。</p>		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>同法人のデイサービスセンターの利用から入居に至るケースが多いが、入居にあたってはデイサービスセンターからの散歩がてらに寄ってもらい、入居者と話しをしたり、お茶を飲むなどして、徐々にホームの雰囲気に馴染んでもらっている。また、他の入居希望者にも、何度か来所してもらい、場の雰囲気に馴染んでからの入居に努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、笑顔を大切に声に出して笑うことを心掛けており、入居者からは料理の味付けや昔の習慣等の知らないことを教えて貰っている。入居者と過ごす時間を共有し、共に支え合う気持ちを忘れないように心掛けている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向等の表出が困難な入居者には、できるかぎり寄り添って話を聴く等、その人の思いや意向の把握に努めている。また、本人や家族から入居者の生活歴等を聞き、それらを基に一人ひとりの思いや意向に応じた支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員1人が入居者1～2名を担当しており、月1回の会議の場で担当職員が入居者の生活状況や健康状態等の報告を行っている。ケアマネジャーでもある管理者が中心となり職員と話し合い、本人及び家族の希望や主治医の意見も参考にして介護計画を作成している。センター方式のアセスメントは今年から取り入れ、少しずつ利用をしているが職員間で共有していくことが今後の課題である。	○	職員間での話し合いやセンター方式のアセスメントの活用に加え、関係者の意見やアイデア等が反映された、入居者本位の介護計画が作成されることに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月に1回モニタリングを行い、6か月毎に見直しをしている。入居者に変化があった時は、その都度連絡ノートを活用すると共に家族にも連絡を行い、意見や要望を確認して、現状に即した介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の体調によっては、敷地内にある同法人のデイサービスセンターの特浴を利用したり、特別養護老人ホームとの合同の運動会に参加したり、デイサービスセンターに来所するボランティアや美容師にホームにも来てもらう等、多機能性を活かした柔軟な支援に努めている。		

特別養護老人ホーム義明苑 グループホームくぼた


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医には週1回の訪問診察の他、夜間や緊急時にも診てもらえる体制となっている。入居者本人や家族の希望により、馴染みのかかりつけ医がある場合には家族とともに職員が支援している。また、法人内の看護師（兼務）は、随時にホーム来て入居者の病状のチェック等を行っており、連絡ノート等を利用してアドバイスを貰っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者及び家族からは、重度化した場合の対応に関する同意書を入居時と実際に重度化した際の2回提出してもらう事としており、入居者の状態を見ながら家族と相談を行っている。また、当ホームでは看取りに関する指針を作成し、家族から看取りの要望があれば対応することとしているが、現時点では看取りを希望する家族はいない。	○	当ホームでは看取りに関する指針を作成しており、重度化した場合や看取りに備えている。現在、看取りを希望する家族がない状況ではあるが、今後、研修等の機会を利用して、職員への看取りに関する意識付けや方針の共有化に取り組み、重度化した場合等の体制づくりや支援方法等を今後も検討していくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を尊重しており、入居者への声掛けは名前や苗字で呼ぶ等、注意をしている。また、入居者のプライバシーにも配慮しており、個人情報の書類等は事務所に置いて個人名が分からないようにしている。個人情報の書類等を外部の者に見せる場合でも必ず本人や家族の同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての日課はあるが、朝の起床時間や食事の時間等においては、入居者一人ひとりの生活リズムや生活習慣を優先し、その人らしい生活が送れるように心掛けている。		

特別養護老人ホーム義明苑 グループホームくぼた

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食ではないが食事の希望をとり、希望に添える献立作りをしている。特に朝食のメニューは夜勤者が入居者の意見を聞いて決めている。入居者にはテーブル拭き、野菜の皮むき、刻み、食器の片づけ、食器拭き等の出来ることをしてもらっている。職員は、入居者と同じ物を食べており、さりげなく支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週4回程度であり、職員の支援により入浴している。ゆず湯や季節にあった入浴剤などを使用して入浴が楽しめるよう工夫をしている。入浴日や入浴の順番等は入居者の希望に添うよう努めており、入浴に消極的な入居者へは、本人の機嫌の良い時を見計らい、「着替えをしませんか」などの声かけを行う等、入浴を促す工夫により支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	他の入居者の食前の手の消毒、テーブル拭き、食事のお盆や箸の配膳、洗濯物干しやたたみ、部屋の清掃等、入居者本人の出来る事や得意な事を役割や楽しみ事として支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者自らが外出したいとの希望はあまりないが、職員が週1回近くのスーパーへ買出しに行く際には希望者とともに出掛けている。年間の行事計画を作成しており、普段は2～3名で外出するようにしているが、9月には全員でフラワーパークに出掛けた。入居者の誕生日には外出・外食等の希望を聞く様にしており、希望に沿って回転寿司等への外食に出掛けている。訪問時には、入居者が外のベンチに座り日向ぼっこをしている姿が見られた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関には鍵をかけていない。道路に出る門扉は車の往来があり危険なので原則施錠しているが、午前中の職員配置の人数によっては鍵はかけないようにしており、家族からも了解をもらっている。		

特別養護老人ホーム義明苑 グループホームくぼた

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は、入居者と共に月1回は行っており、入居者は消火器の位置がわかるようになった。また、消防署員立ち会いの避難訓練も法人との合同とホーム単独での年2回実施している。地域での防災訓練時には炊き出し等を行っているが、ホームとの合同での訓練や協力体制づくりには至っていない。	○	今後は地域の消防団員等に運営推進会議に参加を依頼するなどして、消防訓練等への協力依頼や支援体制の構築等、地域との関係づくりに向けた取り組みに期待したい。また、夜間時を想定した訓練の実施や地震や水害を想定した訓練の実施等の検討も期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、入居者の体調等を考慮し、ご飯の盛りを調節したり、お粥にしたりと一人ひとりに合わせた配慮をしている。水分の確保については、食事の時以外にも10時や15時、入浴後等に水分補給を促し支援に努めている他、飲み込みが悪い方にはゼリー等での水分補給も行っている。食事量のチェックは毎食時に行っているが、完食の方が多い。また、栄養面では併設している特別養護老人ホームの管理栄養士の指導を得ている他、主治医からのアドバイスも得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると吹き抜けの食堂ホール兼居間の空間になっており、ソファ等が配置されている他、畳のスペースも有り、中庭を見ることが出来る解放感ある造りになっている。共用空間には入居者が生けた花や職員が撮影した写真が飾られている他、季節感を感じてもらえるように配慮しており、訪問時にはクリスマスツリーが飾られていた。清掃時には窓を開けて自然換気を行っており、温度や湿度にも加湿器等を使用して配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者及び家族に、居室には入居者が使い慣れた馴染みの家具などを持参可能であることを伝えている。各居室には仏壇、位牌、布団、テレビ、時計等の入居者各々の馴染みの物が持込まれており、居心地のよい空間作りが図られている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。